

第22回 「なぜなぜ分析」ワンポイント応用編

ここでは、拙著の本に紹介していない応用編について、紹介したいと思います。（ただし、いつか活字になるかも(?)しれません。お約束できませんが……）

あわせて、「なぜなぜ分析」の基本については、ぜひ当社ホームページ、インフォメーションに記載の書籍等をご覧ください。

2006年 9月 23日

有限会社 マネジメント・ダイナミクス

小倉仁志

jin-ogura@management-dynamics.co.jp

「現象」を表現する際に、総称言葉に気をつけよう！

皆さんの会社でも、普段から製品不良を総称で議論してしまっている場合が少なくないのではないのでしょうか。

例えば、「シール不良」や「印字不良」、「接着不良」、「寸法不良」などなど。

ある程度絞り込んだ言い方にはなっているようですが、「なぜなぜ分析」の「現象」を表現する場合には、さらにその「〇〇不良」について、どんなタイプの「〇〇不良」なのかを見極めておかなければなりません。

上記の「シール不良」の場合は、

- Ⓐ 最初からシールの一部がくっついていない
- Ⓑ シールの一部がはがれてしまう
- Ⓒ シールが斜めになっている
- Ⓓ シール幅が狭いまたは、広い
- Ⓔ ひとつのシールの中で、シール幅がばらついている
- Ⓕ 接着強度が全体的に低い(シールの位置や、幅は正常にもかかわらず)

といったところまで、つかんでおくことが大切です。

そうしないと、次の「なぜ①」が非常に漠然としたものになりかねません。

そうならないためのコツは、見たままの姿を具体的に表現すればよいのです。

決して、普段使っている総称をそのまま使ってはいけません。

もちろん、ボーっと見るのではなく、見ようと思って見なければなりません。(精神力が必要！)

人の顔も「美人」という一言でくれないのと同じですね。

では、また。

以上